

## 『英語（リスニング）』

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

## 1 前文

令和8年度共通テストの『英語（リスニング）』の受験者は、本試験では453,425人で、受験者全体の約97.82%に当たる。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質や難易度、使用される言語材料が、受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者等、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）15ページに記載の8項目の観点により、総合的に検討を行った。

## 2 内容・範囲

内容・範囲に関しては、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」を網羅している。題材は受験者にとって場面が想起しやすい身近な話題から、大学の講義のように科学的かつ学術的な題材と幅広く、絵や図表を見て答える問題、講義を聞いて内容をまとめる問題、二者や三者による会話を聞いて内容を把握し、知識を活用したり思考力・判断力を発揮したりして答える問題等がバランス良く出題されていた。

第1問A 短い発話を聞いて、内容に合う英文を選ぶ問題。コンサートの長さについての感想を述べる、眼鏡の場所を尋ねる、娘の靴のサイズについて気付きを述べる、寒さのせいであまり花を見ることができないことを残念がる等、日常生活に見られる自然なコミュニケーション場面である。

第1問B 短い発話を聞いて、内容に合う絵を選ぶ問題。ソファの上の妹と毛布の位置関係、一軒家に欲しい住設備、干している衣類、自転車に乗ろうとしている少女のヘルメット着用状況が描写されている。

第2問 日本語で示されている場面設定に基づき、短い対話を聞いて、適切なものを選ぶ問題。父親の誕生日会で出すケーキについて話す、棚にある不要物を運ぶための入れ物を決める、自然界で水が循環する過程について確認する等の場面が描写されている。問11は、聞き取った情報を図と照らし合わせながら、言及されていない段階の絵を選ぶため、思考力が求められる。

第3問 短い対話を聞いて、示されている質問に合致する内容を選ぶ問題。留守中の犬の預け先について話す、訪ねてくる友人を案内する場所について相談する、型落ちのパソコンの入手方法を教える、バスを下車するために動き出すタイミングについて話し合う、通学時間に電車内ですることについて伝え合う、体育祭の雨天延期の条件や段取りについて確認する等、コミュニケーションの必然性が十分意識された場面設定である。

第4問A 絵や表を描写する英文を聞いて、絵を順番に並べ替えたり、表中に欠けている情報を補ったりする問題。問18～21は、stay dryなどの情報から並べ替えに不要な絵を1枚特定する必要があることから、正確に聞くことが求められる。問22～25は、クラブ活動発表会で行われる行事の最新情報を整理しながら聞き取った上で、スケジュール表を更新することが求められた。

第4問B 来週末行くキャンプ場の特徴を説明する四人の発話を聞き、3つの条件全てを満たすものを選ぶ問題。表にあるキャンプ場の順で、到着までの所要時間、夜間のアクティビティへの参加及びペットを連れての入場の可否という条件が説明される。自分の基準で条件を設定してそれに合うものを選択するという、日常生活や社会生活において経験する場面が設定されている。

第5問 大学の講義を基に3つの活動に取り組むという、学習の過程が意識されている問題。健全で多様性に富んだ森林について考えさせる題材であり、SDGsとの関連もあり教科横断的である。活動1では、リスがどう種を扱うかによって異なるそれぞれの効果を聞き取り、ワークシートにまとめる。活動2では、講義に関する二人の受講者の発話が、講義内容と一致するかどうかを判断する。活動3では、ネズミとの関連における種の散布率のグラフを見ながらディスカッションを聞き、情報を統合しながら判断する。問32は、1文で構成される発話ではあるが、従属節と主節で構成される、ある程度長さのある文であるため、正確にかつ詳細に聞き取り正誤を判断する必要がある。

第6問A 部屋に置くカレンダーについて相談する対話を聞き、それぞれの主張の要点と最終的な決定を選ぶ問題。会話の中では、いくつかの選択肢を示しながら、お互いの好みを確認し合い、最終的にオリジナルカレンダーを作成するという合意形成が図られている。

第6問B 共同で運営しているウェブサイトを開鎖するかどうかについての三者の議論を聞き取る問題。無効リンクの問題やウェブサイトの運営経費について聞きながら、会話が終わった時点での各話者の考えの変容を理解したり、発言の根拠となる図表を選んだりする。複数の意見を正確に把握し、情報を整理する力が問われている。

### 3 分量・程度

出題は例年どおりで、大問が6問、設問が37問の問題構成である。読み上げ回数も変更はなく、第1～2問が2回、第3～6問が1回であった。多様な英語が使用されていたが、音声・スピード共に、おおむね聞き取りやすかった。

第1問A（各英文12語～15語・2回読み）1～2文の短い英文を聞き、概要を正しく把握して最も適切な選択肢（文）を選ぶ問題。扱われる語彙・表現は標準的な難易度だった。

第1問B（各英文12語～14語・2回読み）1文の英文を聞き、その英文が表している選択肢（絵）を選ぶ問題。短時間でも識別しやすいよう、選択肢の絵は工夫され、迷わず選べるものとなっており、受験者にとってはおおむね解きやすい問題だったと言える。

第2問（各対話文26語～33語・各設問5語～8語・2回読み）短い対話の中で適切に難易度が調整されている。問11は、本試験同様に前後関係に循環要素が加わった設問だった。対話の中で言及されている選択肢を素早く特定した上で残ったものを選ぶことが必要となるため、難しい問題だった。

第3問（各対話文45語～52語・1回読み）発音の特徴の異なる英語が話されている。話の意図や内容を正確に理解するには全体を通して聞く必要があり、部分的に聞いただけでは判断しにくい。さらに選択肢の言い換え表現に高度なものも一部あり、やや難しい問題が含まれていた。

第4問A（問18～21＝83語・問22～25＝79語・1回読み）全体を通して音声ははっきりと聞き取りやすい。問18～21は、聞こえてくる情報をそのままの順に並べる問題ではないことや、余分な選択肢となる絵があることから、難易度が高かった。一方、問22～25は聞き取った順番通りに時間や会場などの情報を表に当てはめる問題であり、解きやすかった。

第4問B（四人の各話者＝44語～47語・1回読み）発音の特徴が異なる英語が適度な速度で話されており、全体としては聞き取りやすい。ただし、1日の時間帯を表す表現が多様で、その他の表現についても婉曲的な言い回しが多く使われているため、幅広い表現や語彙の知識が求められ、内容の理解がやや難しい問題である。

第5問（問27～31＝282語・問32＝39語・問33＝51語・1回読み）音声もおおむね明瞭でスピードも標準的で、無理なく聞き取ることができる。本試験と比べても、講義全体の内容は比較的に明

快で構成も理解しやすい。問 28～31 の選択肢は、講義内の表現をそのまま使うことが多く、比較的容易であった。問 32 では Student A の発話の 1 文が比較的長く、内容を把握する前に次の話者の発言が始まるため、情報統合の負荷が高かった。

第 6 問 A（対話文全体＝166語・1 回読み）二人の対話のはっきりと聞き取りやすいテンポで話されており、話題も想像しやすい。難易度は標準的である。

第 6 問 B（英文全体＝212語・1 回読み）本試験と同様に、三人の話者がそれぞれの立場から意見や主張を述べる形式となっており、受験者には各話者の意図や立場の違いを正確に把握する力が求められる。婉曲的な表現が多く用いられており、発言の裏にある意図を正しく聞き取るには、幅広い語彙力や表現の知識が必要であり、やや難しい問題である。

#### 4 表現・形式

第 1 問 A 短いモノローグを聞き、内容に合う英文を選ぶ設問である。選択肢への言い換えが工夫されており、短いながらも思考力を要する問題となっている。4 問中 3 問に be 動詞や助動詞の否定の縮約形が使われ、口語的な発話が意識されていた。

第 1 問 B モノローグに合う絵を選ぶ設問であり、絵の違いを把握した上で情報を適切に聞き取る力が求められる。問 6、問 7 は、モノローグ中の場面に存在しないものを正しく判断して適切な絵を選ぶ形式という特徴があり、選択肢の絵にはその違いが分かりやすく表現されていた。

第 2 問 短いダイアローグを聞き、その内容に合うものを選ぶ設問である。問 10 では発話の中に、文頭の Are you が省略された口語的な表現が用いられており、カジュアルな場面を想定した発話となっていた。問 11 では、①の雲の中に水が蓄えられている絵よりも、④の水の蒸発による雲の生成を表す絵に太陽が描かれていた方が、より発話内容を正確に反映すると思われる。

第 3 問 短いダイアローグを聞き、問いに答える形式である。問いと状況が事前に示されており、聞き取りの目的が分かりやすい構成である。イギリス英語での対話も一部含まれていた。場面に即した自然なコミュニケーションの表現が使われていた。

第 4 問 A 話の内容に沿って情報を整理し、絵を並べ替えたり表を完成させたりする形式である。問 18～21 は、一枚余分な選択肢の絵があることにより、より正確な情報の聞き取りが求められるという形式は本試験と共通しているが、追・再試験では、本試験よりも明確に違いが判別しやすい場面が選択肢の絵に表現された。

第 4 問 B あらかじめ示された条件を踏まえて、当てはまるものを選ぶという、実生活の中で必要とされる状況がうまく再現されている。また、条件を整理するための表が用意されており、受験者が聞き取る内容に集中できるよう工夫されている。

第 5 問 問 27～31 は、講義を聞き、その内容の重要な点を整理しながらワークシートを完成させる形式の設問である。ワークシートには、ドングリを持つリスのイラストに加えて、リスの行動の違いによって異なる結果が生じる様子が矢印を用いて表現されており、講義の全体像を分かりやすく整理するものとなっていた。問 32 はいずれも複文構造を持つ英文が読まれ、本試験よりも長く複雑な発話となっていた。問 33 のグラフは 2 つの条件を比較することが明確に伝わるものであった。

第 6 問 A カレンダーを店で選ぶようとしている夫婦が、商品の特徴について話し合う中で、商品を購入するのではなく、カレンダーを自作するという選択についての合意形成を行う場面が表現されている。相手の意図を尊重しながら提案するなど、コミュニケーションの目的に合う多様な表現が用いられていた。

第 6 問 B 三人の会話を聞き、要点を把握したり、考えの根拠となる図表を選択したりする形式の

問題である。ウェブサイト運営の手間やコストに関する会話の中で、事実と意見を組み合わせながら、他者への責任ある態度も表現されている。問37は、多様な図表を用いて多角的な視点での考察を求める教育活動に合致した問題である。

## 5 まとめ（総括的な評価）

追・再試験である本テストは、内容・範囲、分量・程度、表現・形式の各観点において、本試験との大きな差はなく、いずれの受験者にとっても公平なテストとなっている。

本テストは、実際のコミュニケーション場面に即した文脈の中で、日常的な話題や社会的な話題など、様々な題材から構成された内容であった。音声面では、アメリカ英語やイギリス英語に加え、英語を母語としない話者の発話も含まれており、多様な話者と対話することが想定されるグローバル社会を見据えたリスニング試験であると言える。また、知識・技能を問う問題に加え、まとまりのある内容の話聞き取って、概要や要点を捉えるなど、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる内容がバランス良く出題されている。

4技能5領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目標としている学習指導要領の方針が、本テストの問題内容に十分に反映されていることを踏まえると、高等学校等における今後の英語指導は、思考力・判断力・表現力等の向上を目指した授業展開をより一層推進することが期待される。日頃の授業においては、英語で発話された情報を聞き取り整理するだけでなく、目的や場面、状況などに応じて、自分自身の意見や主張などを理由や根拠とともに述べるような活動があることが望ましい。同時に、豊かなコミュニケーション能力の育成には必須である、他者の意見に配慮させるような協働的な活動を積極的に取り入れるなど、主体的・対話的で深い学びを実現する指導を充実させたい。

一方で、本テストには課題も見られた。第5問では、本試験同様に完答を求める必然性が低いと思われる設問があり、完答による難化に対して配点が低かった。この点については、難易度のばらつきとの整合性を図りつつ、受験者への負担や、全体の配点のバランスを含め、より一層の検討を望む。

自然科学や社会科学などを含む教科横断的な情報や知識を基に論理的・客観的に分析し、ものごとの本質を見極める力は今後一層必要になるだろう。情報の量や質が変化し続ける社会背景を踏まえ、本テストにおいては、受験者が身に付けた知識を結集させながら解答する問題や学習過程を意識した問題が多く出題されるなど、外国語の学び方や指導の仕方にメッセージを与える試験であった。今後も、社会や大学で求められる力に対応すべく問題の在り方を研究されることに期待したい。